

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
初 年 次 教 育	学修基礎a	大学では、高校までの受動的学習に加えて、自ら考え発表する、他の受講生と議論する、自ら問題を発見し、その解決を目指すなどの能動的な学びと学習スキルが必要となる。ノート作りひとつ取っても、高校までとはまったく異なる考え方が必要である。この講義は、1年生のうちこういった能動的な学習のために必要な基礎的なスキル・能力を身につけ、自主的・主体的な学びを実現していく準備をする。
	学修基礎b	第1クォーターに続き、能動的な学習のために必要な基礎的なスキル・能力を身につけ、自主的・主体的な学びを実現していく準備をする。第2クォーターでは、主に文献の読み方とレポート・論文の書き方を学ぶ。
	コンピュータ基礎演習 I	この演習では、コンピュータシステムの構成と機能を解説し、オペレーティングシステムと情報通信ネットワークについて、Windowsを例として、電子メール、web上での検索などwebシステムの演習を行う。コンピュータ及びネットワークのリテラシー技術を習得することを目標とする。
	コンピュータ基礎演習 II	「コンピュータ基礎演習 I」に引き続き、コンピュータの基礎的な操作方法の習得を目指す。本演習では、コンピュータ上でいくつかのソフトウェアを利用し、基本的な利用環境とその操作方法を習得する。具体的には、データの作成→データの分析→レポートの作成→プレゼンテーションの一連の流れを題材にした演習を実施する。
一 般 教 養	金沢まち学 I a	「金沢」という街の持つ力を、リレー形式の授業によって、人文学の複数の視点から総合的に分析する。履修者は、講義に関連する「金沢」の様々な場所を実際に訪れ、自らの五感で、講義内容を確認するとともに、「金沢」の新たな魅力を発掘する。I aでは、金沢の地形・気候・風土について基本的な知識を身につけ、魅力と問題点が把握できることをめざす。
	金沢まち学 I b	「金沢まち学 I a」に続き、「金沢」という街の持つ力を、リレー形式の授業によって、人文学の複数の視点から総合的に分析する。I bでは、金沢の歴史と文化について基本的な知識を身につけ、魅力と問題点が把握できることをめざす。
	金沢まち学 II	金沢について、地理的特徴や歴史・文化的特徴を学び、そうした特徴から形成された金沢のまちの個性を理解する。また、得られた知見をもとに金沢のまちを見学し、実際にその個性が金沢の魅力となっていることを確認する。さらに、金沢のまちづくりの行政施策を学ぶことにより金沢の魅力を磨き上げる過程を知り、現状の課題と今後のまちのあり方について考える。
教 養 科 目	FSP講座	大学と企業が連携した「産学協同PBL型講座」を通じて、社会で必要とされる課題解決能力やコミュニケーション能力等の基盤として必要な「主体性」を引き出すことを目的としている。入学後の早期に社会のリアルな課題に触れ、「正解のない課題」への取り組みと振り返りを通じて、理論や知識の不足、できない自分を知ることから、学びへの意欲の喚起を目指す。
	キャリアデザイン I	大学での充実した学びのための基本的な知識、情報を提供するとともに、卒業後のキャリアプランを描くための考え方を理解する。そのために、ゲストやメンバーとの対話、ワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、振り返りによって個々の「気づき」を促し、対人関係構築力、チームワーク力、問題解決能力の修得を目指す。
	キャリアデザイン II	「働くとは」「企業（組織）とは」「職場の多様性」等、それぞれのキーワードについて深く考えることで受講生一人一人が、他者を通じた自己分析、自身の今後の仕事への向き合い方、他者との付き合い方、大事にしたい価値観等、将来を考える上で必要なことを見出すことを目的としている。講義を通し、情報活用力、論理的思考力、問題解決能力の修得を目指す。
	キャリアデザイン III	勤労観（なぜ働くのか）、職業観（働くイメージ）を醸成し、自らの進路を考え選択する実践的な力及び総合的な就業力を育成することを目的とする。具体的には、自分を知り、企業を知る（企業分析・インターンシップ）ことによって求められる能力を知り、自分に足りない「基礎学力」「文章力」「対話力」を伸ばし、社会で活躍できる力の修得を目指す。
	キャリア プランニング I	社会人として必要な一般教養を身につけ、また、就職に必要な各種一般常識や一般教養試験に対応できる、人文・社会・自然科学分野の基礎力を養成する。できるだけ多岐にわたる分野とトピックスを取り上げ、具体的な学習活動、就職試験問題への対応と対策にも言及する。自らの将来設計に向かって積極的に対処する能力・態度・努力・工夫の基盤が形成されることを目標とする。
	キャリア プランニング II	これまでの学習活動の積み重ねを基盤に、社会人として必要な各種一般常識や一般教養試験に対応できる、人文・社会・自然科学分野の応用力を養成する。学習全般を通じて、これら一般常識を身につけるとともに、自ら積極的に行う自己分析、職域・職種研究等が、個々の個性的、論理的表現に結実するよう、論述力・自己表現力が涵養されることを目標とする。
キ ャ リ ア 教 育	FSP講座	大学と企業が連携した「産学協同PBL型講座」を通じて、社会で必要とされる課題解決能力やコミュニケーション能力等の基盤として必要な「主体性」を引き出すことを目的としている。入学後の早期に社会のリアルな課題に触れ、「正解のない課題」への取り組みと振り返りを通じて、理論や知識の不足、できない自分を知ることから、学びへの意欲の喚起を目指す。
	キャリアデザイン I	大学での充実した学びのための基本的な知識、情報を提供するとともに、卒業後のキャリアプランを描くための考え方を理解する。そのために、ゲストやメンバーとの対話、ワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、振り返りによって個々の「気づき」を促し、対人関係構築力、チームワーク力、問題解決能力の修得を目指す。
	キャリアデザイン II	「働くとは」「企業（組織）とは」「職場の多様性」等、それぞれのキーワードについて深く考えることで受講生一人一人が、他者を通じた自己分析、自身の今後の仕事への向き合い方、他者との付き合い方、大事にしたい価値観等、将来を考える上で必要なことを見出すことを目的としている。講義を通し、情報活用力、論理的思考力、問題解決能力の修得を目指す。
	キャリアデザイン III	勤労観（なぜ働くのか）、職業観（働くイメージ）を醸成し、自らの進路を考え選択する実践的な力及び総合的な就業力を育成することを目的とする。具体的には、自分を知り、企業を知る（企業分析・インターンシップ）ことによって求められる能力を知り、自分に足りない「基礎学力」「文章力」「対話力」を伸ばし、社会で活躍できる力の修得を目指す。
	キャリア プランニング I	社会人として必要な一般教養を身につけ、また、就職に必要な各種一般常識や一般教養試験に対応できる、人文・社会・自然科学分野の基礎力を養成する。できるだけ多岐にわたる分野とトピックスを取り上げ、具体的な学習活動、就職試験問題への対応と対策にも言及する。自らの将来設計に向かって積極的に対処する能力・態度・努力・工夫の基盤が形成されることを目標とする。
	キャリア プランニング II	これまでの学習活動の積み重ねを基盤に、社会人として必要な各種一般常識や一般教養試験に対応できる、人文・社会・自然科学分野の応用力を養成する。学習全般を通じて、これら一般常識を身につけるとともに、自ら積極的に行う自己分析、職域・職種研究等が、個々の個性的、論理的表現に結実するよう、論述力・自己表現力が涵養されることを目標とする。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	
外国 語科目	第一 外国 語	基礎英語 I	四技能(読む・聴く・書く・話す)すべての土台となる「英文法」を、基礎から体系的に理解することを目的とする。学生は、実際に英語の文章を読みながら、正確に読み解くためにはどのような英語の規則を知っておく必要があるのかを学ぶ。この授業を通じて、今後の自律的な英語学習に必要な基礎力を身に付け、辞書と時間さえあれば、一般的な英語の文章を読み解くことができる英語力を習得することが目標となる。
		基礎英語 II	「基礎英語 I」を受けて、「英文法」を体系的にさらに深く理解することを目的とする。学生は、実際に英語の文章を読みながら、正確に読み解くためにはどのような英語の規則を知っておく必要があるのかを学ぶ。この授業を通じて、今後の自律的な英語学習に必要な基礎力を身に付け、辞書と時間さえあれば、一般的な英語の文章を読み解くことができる英語力を習得することが目標となる。
		English Communication I	While learning how to survive in a variety of conversational situations, students will improve their English by practicing the four language skills: reading, writing, speaking and listening. However, emphasis will be placed on enabling students to start and sustain simple conversations. Students will have opportunities to practice model dialogues and role plays as well as freer conversations in both pair and group situations. To prepare for these conversations, students will receive individual instruction on proper pronunciation, stress, intonation, and expression. After, students will receive individual feedback on their performance. By the end of the course, students will be expected to be able to communicate fluently and confidently in the situations introduced in the course. さまざまな状況に対応できる英語力を身につける。ペアワーク、ロールプレイなどを通し、英語の四技能をバランスよく鍛え、簡単な英会話ができるようになることを目的とする。
		English Communication II	Students will build upon what they learned in English Communication I by learning to survive in different, more challenging situations. Students will improve their English by practicing the four language skills: reading, writing, speaking and listening. However, emphasis will be placed on enabling students to start and sustain simple conversations. Students will have opportunities to practice model dialogues and role plays as well as freer conversations in both pair and group situations. To prepare for these conversations, students will receive individual instruction on proper pronunciation, stress, intonation, and expression. After, students will receive individual feedback on their performance. By the end of the course, students will be expected to be able to communicate fluently and confidently in the situations introduced in the course. 「English Communication I」よりもさらに複雑な状況に対応できる英語力を身につける。ペアワーク、ロールプレイなどを通し、英語の四技能をバランスよく鍛え、より高度な英会話ができるようになることを目的とする。
		英語プレゼンテーション 初級 I	この授業は、英語プレゼンテーションの方法、具体的には、資料収集、原稿作成、聴衆の前での発表、質疑応答などの方法を、学生が授業内で能動的に実践しながら学ぶことによって、「読む・聴く・書く・話す」の四技能を総合的に高めることを目的とする。最終的には、基本的な英語表現を使って、簡単なプレゼンテーションができるようになることが求められる。
		英語プレゼンテーション 初級 II	「英語プレゼンテーション初級 I」を受けて、英語プレゼンテーションの方法をさらに学び、「読む・聴く・書く・話す」の四技能を総合的に高めることを目的とする。最終的には、基本的な英語表現を使って、ある程度まとまった分量のプレゼンテーションができるようになることが求められる。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
学 科 共 通 専 門	プレ卒業研究演習	<p>卒業研究の作成に向けて、自らの研究テーマを発見し、確定するための活動を行う。</p> <p>【日本語日本文学専攻】卒業研究として昇華させていくための導入的専門指導を受ける。前半は、学生が自らの関心のありかを見定めるため、複数の専門分野のゼミに参加する。学生は複数の卒業研究ゼミに参加することで、それぞれのゼミでどのような研究テーマを扱うかを知り、自らの卒業研究のテーマを決めるための活動を行う。その上で後半では、所属ゼミを確定し、指導教員やゼミ生と活発な対話を行うことで、卒業研究のテーマの絞り込みを図り、卒業研究作成に向けた具体的な研究活動に入っていく。</p> <p>【英語英米文学専攻】英語学・英米文学分野の研究に対して、助言・指導を行う。研究の進捗確認のため、中間報告を実施し、問題設定、データ収集、考察について履修者全員でディスカッションし、問題点や課題を確認する。</p> <p>【歴史学専攻】各専門教員の研究室に配属し、4年次の卒業研究遂行に必要な先行研究の整理、資料収集・調査などの研究方法の基礎を修得する。また、個々に探求すべき問題点の発見や研究テーマの設定につなげる。</p> <p>【心理学専攻】心理学分野の研究に対して、助言・指導を行う。研究の進捗確認のため、中間報告を定期的実施し、問題設定、データ収集・解析法、考察について履修者全員でディスカッションし、問題点や課題を確認する。</p>
	卒業研究	<p>【日本語日本文学専攻】プレ卒業研究演習を通じて見つけ出した自らの研究テーマを、卒業研究としてまとめていく活動を行う。具体的には、作品の精読、先行文献の収集、文献の読み込み、データ分析などを行い、さらにこれらをふまえて総合的に考察していく。適宜、指導教員の指導を受け、ゼミでの発表や討論などを経て、段階的に研究を進める必要がある。</p> <p>【英語英米文学専攻】プレ卒業研究演習を通じて設定した研究テーマについて、先行研究をまとめ、問題点を指摘し、独自の考えを提案し、最終的に論文またはポートフォリオの形式としてまとめる。各段階において指導教員の指導を受け、計画的に研究を進めることが求められる。</p> <p>【歴史学専攻】プレ卒業研究演習を通じて設定した研究テーマについて、各自が史資料の収集・整理、調査・分析を進める。研究方法、研究進捗などについて、指導教員の指導を受け、研究成果の集大成として卒業論文にまとめ提出する。</p> <p>【心理学専攻】プレ卒業研究演習を通じて見つけ出した自らの研究テーマを、卒業研究としてまとめる活動を行う。先行研究を整理し、問題点を明らかにして、それを検討・検証するための研究計画を立てる。調査や実験の手法を用いてデータを収集し、適切な解析法を用いて、分析を行う。指導教員の指導を受け、研究成果を論文としてまとめる。</p>

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 科 目 日 本 文 学 専 攻	日本文学概説 I a	日本文学研究にかかわる基本的な問題を取り上げる。基本的な文献と資料の検索法、本の歴史を検討する。専門的な用語の解説を交えて、基本的な研究法を修得することが、講義の概要である。
	日本文学概説 I b	日本文学研究にかかわる基本的な問題を取り上げる。基本的な文献と資料の検索法、本文の生態と異同の問題、関連する先行研究を検討する。専門的な用語の解説を交えて、基本的な研究法を修得することが、講義の概要である。
	日本文学概説 II a	日本文学作品研究にかかわる基本的な問題を取り上げる。作品分析、作品研究の意義と内容、方法についての理解を深め、具体的な作品を取上げて作品論の実際にふれて、各自の立論を試みる。専門的な用語の解説を交えて、基本的な研究法を修得することが、講義の概要である。
	日本文学概説 II b	日本文学作品研究にかかわる基本的な問題を取り上げる。II bでは、aを深めて作品分析、作品研究の意義と内容、方法についての理解を深め、具体的な作品を取上げて作品論の実際にふれて、各自の立論を試みる。専門的な用語の解説を交えて、基本的な研究法を修得することが、講義の概要である。
	日本語学概説 I	日本語をさまざまな角度から考察することで、我々が日常言語として使用している日本語という言語の性質と特徴について理解する。この講義ではまず、学問分野の導入として、「日本語学」が日本語のどういう面を研究対象としているかについて概観する。次に、日本語の音声・音韻、文字・表記を中心とした話題を取り上げ、日本語に関する幅広い知識を身につけていく。
	日本語学概説 II	日本語をさまざまな角度から考察することで、我々が日常言語として使用している日本語という言語の性質と特徴について理解する。日本語学概説 I に引き続き、日本語の文法、敬語、語彙と意味、バリエーション、方言を中心とした話題を取り上げ、日本語に関する幅広い知識を身につけていく。
	古典文学講読 I	高校までの「古典」の授業では、「くずし字」で書かれた古典文学作品を読みやすい活字のテキストに直したもの(教科書)で学習してきた。古典文学研究においては、古典の作品をもとのままの姿で読み解くことが重要となる。この授業では、毎回「くずし字」で書かれた様々なジャンルの作品を解説し、読解・解釈する練習を通じて、古典文学研究の基礎を身につける。
	古典文学講読 II	高校までの「古典」の授業において、作品の読解は品詞分解と現代語訳が中心であった。古典文学研究では、作品の背後に広がる世界を知り、より深く理解してゆくことが求められる。この授業では、毎回様々なジャンルの作品を読解・解釈する練習を通じて、古典文学研究の基礎を身につける。
	近・現代文学講読A	近・現代文学に関するテーマや代表的な作家、作品をとり上げ、作品の分析や読解の方法を学ぶ。基本的な知識や鑑賞能力を習得すると共に、作品の新たな読みの可能性を探る。
	近・現代文学講読B	日本の近代文学の特徴と、それを研究対象とするときに必要となる視座について学ぶ。文学テキストの具体的な分析を通して主題や構成について理解するとともに、自分なりの論点を発見できるようになることを目指す。
	古典文学演習	古典文学の基礎的かつ重要な作品である『伊勢物語』と『竹取物語』を取り上げる。前期では『伊勢物語』を扱う。在原業平に擬した男主人公が様々な恋の遍歴をたどる、この物語から有名な章段を中心に読み進めてゆきたい。後期では『竹取物語』を扱う。あらすじの有名な物語であるが、丁寧な読解を通して作品の本質を明らかにしてゆく。 各自が発表を担当し、解釈・考察する。作品世界についてはもとより、古代の文化・歴史、及び文学的精神に関する理解を深める。
	近・現代文学演習A	近・現代文学の主要な作品について、先行研究や作品の書かれた背景を自らの力で調査し、その成果を踏まえながら、精緻に文学テキストを読み解く力を養う。
近・現代文学特殊講義A	泉鏡花の小説「歌行燈」(明43)を採り上げ、作品の構造や主題を解析していく。先行研究を踏まえながら、自由な発想で作品を読み解き、鏡花文学への理解を深めるとともに、日本文学演習や卒業研究へ繋がる応用力を養う。	

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 科 目 日 本 文 学 専 攻	日本語学特殊講義	日本語を彩るさまざまな表現技法や論法について知り、ことばの芸術をより深く味わうための力を身につける。表現技法としては、比喩・擬態法・擬人法・倒置法・反復法・反語・対句・押韻・省略法など、論法としては推論法・帰納法・設問法などを扱う。同時にそれらの技法や論法を使って、自分の考えや印象をより効果的に、魅力的に伝える表現も追求していく。
	日本語史概説Ⅰ	現代日本語は、方言も含めて、長い日本語の歴史の中で成立したものである。従って、日本語の歴史を学ぶことは、過去を知るためだけでなく、現代日本語についての理解を深めるためにも役立つ。また、日本語の歴史の変遷の諸事実は、言語変化の要因について考える上でも多くのことを教えてくれる。本講義では、国語教育、日本語教育の内容も意識しながら、時代別の日本語史のうち、総説、音韻史、文字史について、日本語諸方言の事象とも関連づけながら、時代の縦の流れとして概説していく。
	日本語史概説Ⅱ	本講義では前期の「日本語史概説Ⅰ」に続ける形で、国語教育、日本語教育の内容も意識しながら、語彙史、文法史、位相語史などについて、日本語諸方言の事象とも関連づけながら概説していく。
	創作入門	小説、随筆を中心とした文芸的な文章の書き方の基本を学ぶ。具体例となる文学作品を分析しながら、履修者の書いた作品と比較し、創作の基本を理解する。合評会形式を取り入れ、書く力の向上と同時に、履修者の読む力、批評力の向上も図る。
	創作実践	小説、随筆を中心とした文芸的な文章の本格的な書き方を学ぶ。現在の日本文学の最前線に触れ、適宜、現役作家や編集者の批評や指導も取り入れながら、学外に発表できる形で作品をまとめる。
	現代文章論	本気で文章を書く力を伸ばし、それを職業に結びつけたい人を対象とする授業である。読み書きを繰り返し、書く力の基礎体力をつける。その上で、テーマを決めて資料を集め、まとめた文章を仕上げしていく。
	島清恋愛文学講座Ⅰ	当年度の島清恋愛文学賞の候補作品を読み、選考委員会におくる3作品を議論を通して成功させる。贈呈式、創作ワークショップの運営に携わる。現代文学の第一線で活躍する作家や編集者から有益な知見を得る。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 科 目 英 米 文 学 専 攻	英語学講読Ⅰ	英語でのコミュニケーションを自信をもって行うことができるように、基本単語を文や会話のなかで使いこなせる力を徹底的に身につける。そのような力は英語にたくさん触れるだけでは身につかないことがこれまでの研究で明らかになっているため、基本単語が用いられるコンテキストをおさえながら、単語の中核的意味と英語の思考回路を体系的に学び、コミュニケーションに本当に役立つ英語の語彙力の基盤を確立する。
	英語学講読Ⅱ	日常会話や文章に頻出する基本動詞に関して、その中核的意味を理解し、読解力を身につけることを到達目標とする。また、暗記のみに頼る勉強法ではなく、意味をしっかりとイメージし、使い方やコロケーションなどを習得することにより、正確で豊かな表現力を養う。
	英語学演習Ⅰ	英語学を通して学生が自ら研究課題を発見し、その課題に対して能動的に考えることによって、論理的思考力・問題解決力を養うことを目標とする。具体的には、英語学に関する文献を読み、その研究の妥当性について議論し、どのようにしたら先行研究の問題を解決できるのかを考えることによって、英語学の基本的考え方、ならびに方法論を学ぶ。
	英語学演習Ⅱ	「英語学演習Ⅰ」で学んだ内容を活かして、より専門的な英語学の文献を読み、批判・検討することによって、英語学の分野で独自の研究ができるようになるための基礎を身につけることを目的とする。加えて、英語学に関する自らの主張を論理的に構成し、文章化する訓練を行う。
	英語文法論Ⅰ	この授業では、英語の文がどのような原理・規則のもとに成り立っているのかを科学的に考える。学生はこの授業を通じて、英語の基本的な統語的特徴を理解し、自らデータを探して分析する力を身に付けることを目標とする。また、随時日本語や他の個別言語の構造と比較しながら、英語特有の性質とは何か、言語の普遍的性質とは何か、といった問題についても考える。
	英語文法論Ⅱ	「英語文法論Ⅰ」と基本的な目標は変わらないが、この授業では、より複雑な英語の文（具体的には、埋め込み文や疑問文など）を取り上げ、それらがどのように成り立っているのかを考える。英語という個別言語の文法について考えることはもちろんであるが、随時日本語を含むその他の個別言語の文法と比較することによって、言語の普遍性・個別性について検討する。
	English Discussion I	Engaging with a variety of topics, students will improve their English by practicing the four language skills: reading, writing, speaking and listening. However, emphasis will be placed on enabling students to engage in discussion with others. Students will have opportunities to discuss a variety of topics. To prepare for these discussions, students will receive group instruction on the content of the discussion topics, on the issues related to that topic, and on the relevant questions to be asked and answered. Students will receive individual instruction on proper pronunciation, stress, intonation, and expression. By the end of the course, students will be expected to be able to sustain a discussion in English on the topics covered in this course. この授業では、英語の四技能（読む・書く・話す・聴く）を総合的に発展させる。特に、英語で人と議論をする力の養成に焦点を置く。様々な話題について議論をする機会を用意し、その準備段階で、話題の展開や質疑応答の方法についてグループごとに指導する。最終的に、本授業で扱った話題に関して議論ができるようになることを目的とする。
	English Discussion II	Students will build upon what they learned in English Discussion I by studying different, more challenging topics. Students will continue to improve their English by practicing the four language skills: reading, writing, speaking and listening. Emphasis will continue to be placed on enabling students to engage in discussion with others. Students will have opportunities to discuss a variety of topics. To prepare for these discussions, students will receive group instruction on the content of the discussion topics, on the issues related to that topic, and on the relevant questions to be asked and answered. Students will receive individual instruction on proper pronunciation, stress, intonation, and expression. After, students will receive individual feedback on their performances. By the end of the course, students will be expected to be able to sustain a discussion in English on the topics covered in this course. この授業は、「English Discussion I」で学んだ内容を発展させるものである。引き続き、英語で人と議論をする力の養成に焦点を置く。様々な話題について議論をする機会を用意し、その準備段階で、話題の展開や質疑応答の方法についてグループごとに指導する。また学生は、発音・ストレス・イントネーション・表現等に関して個別に指導を受ける。最終的に、より専門的な話題に関して議論ができるようになることを目的とする。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 科 目 英 米 文 学 専 攻	英米文学講読Ⅰ	近現代のイギリス文学を代表する作家の、比較的平易な英語で書かれた小説を講読する。英文の文法や構造を確認しながら、文章を精読する力を養う。また、行間を読めるようにすることで、物語全体の流れをスムーズに把握できるようにすることを目標とする。
	英米文学講読Ⅱ	現代のアメリカ文学を代表する作家の、比較的平易な英語で書かれた小説を講読する。英文の文法や構造を確認しながら、文章を精読する力を養う。また、行間を読めるようにすることで、物語全体の流れをスムーズに把握できるようにすることを目標とする。
	原典講読Ⅰ	近現代のイギリスの短編小説を、原文で的確に理解し、鑑賞できる力を養う。基本的な英文読解力を基本として、近現代のイギリスでよく使われる表現を確認し、作品の中での確に理解できるようになる。物語の流れを掴み、人物描写・情景描写のポイントや作品全体の主題について考えを深めることができる。
	英米文学演習Ⅰ	ルネサンス期のイギリスで書かれた詩や芝居を読みながら、当時を代表する作家の評伝や歴史的・文化的背景を調べ、作品との関わりを考察することを通して、作品の解釈をより説得的なものにする。原典を丁寧に読むことで英語力を総合的に高め、詩の魅力を堪能し、楽しみながら読めるようになることを目標とする。
	英米文学演習Ⅱ	シェイクスピアやミルトンといったイギリスで最も有名な詩人たちの代表的作品を読みながら、宗教改革、内乱といった歴史的・社会的背景を調べ、作品との関わりを考察することを通して、作品の理解をより総合的なものにする。前期よりもやや難解な原典を正確に読むことで英語力をさらに高め、多様な英語の作品を読む基礎を作り上げることを目標とする。
	英米文化論Ⅰ	The purpose of this course is to increase the students' awareness and understanding of Anglo-American cultural values and to improve their ability to read and write academic English. There will also be a variety of activities to foster cross-cultural communication, discussion of ideas, writing and research. The focus of the course will be on the culture of the US, but there will be frequent references made to aspects of British culture as well. この授業の目的は、異文化間コミュニケーション・議論・ライティング・リサーチなどの様々な活動を通して、アングロ・アメリカ文化に対する意識や理解を養成するとともに、学術的な英語を読んだり書いたりする能力を修得することである。この授業では主にアメリカ合衆国の文化に焦点を当てるが、イギリスの文化についても随時紹介する。
	英米文化論Ⅱ	アメリカ合衆国を始め、イギリスやアイルランドなどにおける様々なアングロ・アメリカ文化の特徴を概観していく。本授業の目標は、各国の社会における現状や問題を、文化的・歴史的背景を踏まえて理解できるようになることである。また、文化的多様性を学んでいくなかで、グローバルな意識を育みつつ、異文化理解に対する積極的な姿勢を身につけ、各人が自分の関心の持てるテーマを見出すことも目標のひとつである。

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専門科目	歴史学専攻	古代・中世史演習Ⅰ	日本古代・中世史の研究を進めていく上での、基礎的な史料の読解および史料操作について習熟し、併せて先行研究の成果を参照しながら古代・中世史上の諸概念や論点について理解させる。そのことを通して、日本古代・中世史に関する諸史料の基礎的な読解力を修得させながら、それを探求すべき問題点の発見や研究テーマの設定につなげ得る考察力の養成を目指す。
		古代・中世史演習Ⅱ	日本古代・中世史の研究を進めていく上での、標準的な史料の読解および史料操作について習熟し、併せて先行研究の成果を参照しながら古代・中世史上の諸概念や論点について理解を深めさせる。そのことを通して、日本古代・中世史に関する諸史料の読解力を向上させながら、それを探求すべき問題点の発見や研究テーマの設定につなげ得る考察力の向上を目指す。
		近世史演習Ⅰ	本講義では、歴史学研究に必要な、「史料」を厳密かつ批判的に読解する能力の習得を目指す。前近代の古文書や古記録、編纂物などの「史料」は変体漢文で書かれているため、これらの品詞や語法に慣れながら、正確な解釈を心掛けなければならない。このため、変体漢文の訓読のトレーニングを重ねていく。また、読解力や論理的思考を用いた歴史的考察を進めていくことで、歴史学研究の手法を修得していく。なお、本講義では織豊政権や江戸幕府の政治体制、近世の朝幕関係に関する史料を取り上げる。
		近世史演習Ⅱ	本講義では、歴史学研究に必要な、「史料」を厳密かつ批判的に読解する能力の習得を目指す。前近代の古文書や古記録、編纂物などの「史料」は変体漢文で書かれているため、これらの品詞や語法に慣れながら、正確な解釈を心掛けなければならない。このため、変体漢文の訓読のトレーニングを重ねていく。また、読解力や論理的思考を用いた歴史的考察を進めていくことで、歴史学研究の手法を修得していく。なお、本講義では近世の朝幕関係や村の支配、対外関係に関する史料を取り上げる。
		東洋史文献講読Ⅰ	この講義では、中国や朝鮮半島の歴史を考える上で基本となる文献史料を紹介し、各史料についての解説を行う。また、実際の史料を講読し、その史料について解説をおこなうとともに背景となる歴史や文化について紹介する。また、研究を進めるに当たって必要な漢文史料の読解方法を学ぶと共に、史料批判の方法などを学修する。なお、本講義では中国・東アジアの統治理念や社会文化に関する史料を取り上げる。
		東洋史文献講読Ⅱ	この講義では、中国や朝鮮半島の歴史を考える上で基本となる文献史料を紹介し、各史料についての解説を行う。また、実際の史料を講読し、その史料について解説をおこなうとともに背景となる歴史や文化について紹介する。また、研究を進めるに当たって必要な漢文史料の読解方法を学ぶと共に、史料批判の方法などを学修する。なお、本講義では中国・東アジアの歴史書や関連史料のあり方を学ぶために、書物史に関連する史料を取り上げる。
		西洋史文献講読Ⅰ	この授業では、西欧中世・近世史の各領域に関わる基礎的な文献を講読する。この作業を通じて、当該分野における知識や研究状況を把握すると共に、資料の読み方や情報の整理の仕方、プレゼンテーションの方法などについても習得することを目指す。受講者は事前に指定された文献を読了し、授業内で行われるグループ・ディスカッションへ積極的に参加することが求められる。
		西洋史文献講読Ⅱ	この授業では、「西洋史文献講読Ⅰ」の学習内容を受けて、西欧近代・現代史へと射程を広げる。原則として、基礎文献の講読を通じて、当該分野に関する知識を深めるとともに、適宜、プレゼンテーション等のアクティブ・ラーニングを取り入れる。比較史・関係史の視点をとり入れ、多様な歴史理解について学ぶ。受講者は事前に指定された文献を読了し、授業内で行われる議論に積極的に参加することが求められる。
		考古学演習Ⅰ	遺物観察の実際や実測の原理を学修し、考古学を研究する上で不可欠な遺物実測に関する基礎知識を修得する。遺物観察を通して製作技法などの変化とその考古学的な意味を理解し、考古資料を歴史史料として扱う能力を身に付ける。
		考古学演習Ⅱ	考古学に関する研究のうち主に出土遺物について、県内博物館等の展示物など具体例を用い、研究論文や発掘調査報告書から意義や論点を読み取る。また、考古学研究の手法を用いた実際の論文に当たり、論の展開、節の設け方、図表の提示、参考・引用文献の使い方などの基本を修得する。
考古学演習Ⅲ	主に県内の遺跡を題材とした論文や調査報告書から、縄文～古墳の各時代における当該遺跡の特徴や意義を読み取る。さらにその論点に関する課題や問題点を自ら考える。		

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目 心理学専攻	心理学概論A	心理学は人間の心の働きを科学的に明らかにしようとする学問であり、実験や調査等で得られた客観的な事実に基づいて、人間の行動の法則を見出そうとするものである。「心理学概論A」では、現代に至る心理学の発展、心に関係する生物学的な基礎、感覚と知覚、学習、認知、言語と思考、対人行動の分野について、基本的な知識を習得する。
	心理学概論B	心理学は、人の心を覗き込むような読心術ではない。実際の心理学は人間の心の働きを科学的に明らかにしようとする学問であり、実験や調査等で得られた客観的な事実に基づいて、人間の行動の法則を見出そうとするものである。「心理学概論B」では、動機づけ、感情、発達、パーソナリティ、知能、心の健康と不適応について、基本的な知識を習得する。
	心理学統計法 I	心理学では、実験や調査から得たデータを元に検証をおこなう実証研究によって、心の働きを理解し、法則化しようとする。したがって、文献を読んだり、自分の研究報告をまとめたりするためには、データを整理し、分析する技法を身につけていることが必要になる。心理学統計法 I では記述統計を学ぶことで、一つ一つの変数の特徴を記述したり、二つの変数の関係を記述する方法を身につける。
	心理学統計法 II	心理学統計法 II では、「心理学統計法 I」を受けて推測統計学を学び、統計的検定法など、自分が研究計画を立て報告をまとめるまでに必要となる各種の統計手法を身につける。
	学習・言語心理学	心理学では、学習を「訓練や経験によって生じる比較的永続的な行動の変容」と定義する。これは「学校での勉強」だけではなく、運動技能の習得、日常の経験からさまざまなことを感じとり、それに対処することなども含む。つまり、自分が置かれた環境や社会に適応していく過程が学習であると言える。この講義では、学習の基本的な仕組みについて理解し、学習を説明する諸理論について知見を深める。
	発達心理学	発達心理学とは、時間の経過に従って生じる人間の行動の変化や、その変化の基礎にある法則を記述し、このような変化をもたらす要因を明らかにすることを目的とする学問領域である。この授業では、発達心理学の基礎的な知見や理論を学び、発達心理学の研究法を身につけるとともに、人間の健やかな発達には何が必要なのかという問いについて考えることを目的とする。
	臨床心理学概論	現代は精神障害を含む心理的問題、発達の問題など種々の問題行動で悩む人が多い。そのような人に心理的援助を行い、問題の解決や改善を目指すのが臨床心理学である。臨床心理学の理論や研究法、援助法に関する知識を習得し、臨床心理学的観点から心の問題を理解できるようになることを目指す。
	社会・集団・家族心理学	社会心理学は、人間同士の対人関係に関わる思考や行動に着目する分野である。扱われるトピックは想定する人数によって様々であり、対一の人間関係にとどまらず、数人程度の家族や友人といった集団や、果ては数え切れないほどの人間の集合体である社会まで、極めて多岐に及ぶ。様々な他者との間で起こる相互作用の背景にある法則性を学ぶことによって、人間に対する理解を深めることを目指す。
	心理学研究法 I	心理学研究の基本は、研究目的に沿ってデータを集めて分析し、心のさまざまな側面について明らかにする実証研究にある。実証の手法には実験や調査がある。この講義では、心理学調査の基本的手法を習得し、質問紙を用いた測定をおこなえるようになることを目指すと同時に、データ分析やグラフ作成など調査論文執筆の基本を習得することを目指す。
	心理学実験 I	心理学研究の基本は、心のさまざまな側面についてデータを分析し、明らかにする実証研究にある。実証の手法には実験や調査がある。この講義では、心理学実験の基本的手法を習得し、精確な実験測定をおこなえるようになることを目指すと同時に、データ分析やグラフ作成など実験論文執筆の基本を習得することを目指す。
知覚・認知心理学	私たちは、外界からさまざまな情報を受け取り、それを処理して理解し、行動に移している。情報を受け取るプロセスが知覚、その情報を処理して行動に移すプロセスが認知である。この講義では、注意や記憶などのいくつかのテーマを取り上げて解説し、私たちの情報処理の仕組みについて理解を深める。同時に、日常生活場面においてそれがどのような形で現れているのかについても考える。	

主 要 授 業 科 目 の 概 要

(文学部文学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専門 科目	心理学 専攻	心理的アセスメント	心理検査とは本来、ある理論に基づき作成され、さまざまな吟味を経て使用されるものであり、テレビや雑誌などで見られるいわゆる「心理テスト」とは異なるものである。様々な種類の心理検査について基本的知識や実施上の留意点を学ぶだけでなく、代表的な心理検査を実際に体験してみることを通してより深い学びにつなげる。
		心理演習	基本的な面接技能の体験的習得を目指す。主に傾聴の技能に基づいたロールプレイを行う。参加者が「話す人」、「聞く人」、「観察者」に分かれて模擬面接を行い、やり取りを録音する。やりとりの録音を逐語記録し討議とレポート提出を繰り返すことで技能を習得する。傾聴にもとづく面接ができるようになることが到達目標である。
		関係行政論	公認心理師を始めとした心の専門家が社会において支援活動を実践する上で避けて通れないのが、各種の行政や法律、公的に関する知識である。保健医療分野だけでなく、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働といった様々な分野における必要な法制度を知悉し、関連する他職種の専門家と適切な連携を取りながら支援活動を展開することが、社会的な責務として求められる。本講義では、必要な法制度に関する基礎的な知識を網羅的に身につけることを目的とする。